



国際ロータリー2630地区

名張ロータリークラブ

2025~2026

- 会長 小川 貴 司
- 会長 エレクト 藤 森 至
- 副 会 長 宮 尾 保 範
- 幹 事 坂 本 幸 嗣
- 管理・親睦運営委員長 今 中 武 美
- 広報・会報委員長 丹 下 剛 一

UNITE FOR GOOD

よいことの
ために
手を取りあおう

○例会場

名張市南町822-2 名張産業振興センター(アスピーア)
TEL 0595-64-5353

○事務局

〒518-0729 名張市南町822-2
名張産業振興センター4F
TEL 0595-63-1338 FAX 0595-63-8163
月~木曜日 10時~15時(休憩12~13時)
E-mail nabarirc@e-net.or.jp

第 2827 回例会

9月8日(月)12:30 点鐘

本日のプログラム

【総合司会】宮尾 保範 副会長

【ソング】君が代 奉仕の理想

【行事】ガバナー公式訪問
四クラブ合同例会

【次回のお知らせ】

9/15(月)法定休日(敬老の日)

9/22(月)メークアップ受付

9/24(水)第2828回例会名張中央
RCとの合同例会 18:30~

前例会の記録

第 2826 回例会

9月1日(月)12:30 点鐘

【出席報告】

小川君

○ゲスト 米山奨学生 劉 鑫 様

○ビジター

○出席報告

会員数 42名 欠席人数 10名

出席人数 32名

出席免除者 4名

事前メークアップ 0名

出席率 84.21%

○8/18(月)の出席率はメークアッ
プの為 84.62% を 87.18%

に訂正致します。

【会長の時間】小川会長

助け合いの精神 命つなく 友愛・互助・平和を求めて闘った
「世界の偉人」賀川豊彦(1888~1960)

昨日、8月31日は立春から数えて210日目、雑節の「二百十日」
でした。ちょうど稲刈りが始まっている今頃が一番、台風が来やすい
時節です。各地で作物の無事を祈る風鎮めの祭りが行われます。特に
有名なのは富山の「おはら風の盆」です。風と共に猛暑も収まればい
いのですが...

さて、先週予告しました世界の偉人“賀川豊彦”を知ったのは(お笑い芸人)小島よしおさ
んのコラムを読んだ際です。賀川氏は1888(明治21)年7月10日、神戸で海運業を営む父と
徳島の芸者の子として生まれ、4歳で実の両親と死別して姉と共に本家の父の本妻と祖母に育
てられ、『妾の子』と言われ孤独な幼年時代を過ごします。その後、長兄の放蕩で賀川家は破産
し全てを失います。正に波乱万丈です。その後、徳島のキリスト教の教会で洗礼を受け、賀川
の生き方はキリスト教の友愛の精神に沿って行くのです。1907(明治40)年に賀川は神戸神学
校に進みますが結核を患い死の淵をさまよひ、病苦による絶望の中で「貧民問題を通じてイエ
スの精神を発揮してみたい」と一念発起して神戸のスラムに住み込み、生活条件の極端に悪い
スラムでの救済活動の中で奇跡的に回復、ハル夫人と出会い1913(大正2)年に結婚し、二人
して悪戦苦闘、ハルは劣悪な環境の中でトラコ・マで右目を失明して賀川自身も何回も失明の
危機を経験します。1914(大正3)年スラムの救済活動に限界を感じアメリカのプリンストン
神学校・大学に留学、幅広い学問を習得しアメリカのスラムを見学、労働運動から示唆を得て
1917(大正6)年に帰国、各種の社会運動を指導して“救貧から防貧へ”をスロ・ガンに労働
運動、農民運動、生活協同組合運動等の先頭を立て大正デモクラシ・の機運を盛り上げまし
た。1923(大正12)年の関東大震災の救援活動には神戸からいち早く駆けつけて東奔西走の働
きでボランティアの先駆者に。活動の拠点も東京に移して世界中で講演会をすれば大盛況、自
伝的小説『死線を越えて』は100万部のベストセラ・に。なんと生涯で300冊以上の書籍を出
し、1947年、48年のノーベル文学賞・1956年~60年にはノーベル平和賞の候補に4回も選ば
れました。子供の権利を主張する声明を出したり、農民学校を設立したり、とにかく活躍が多
岐にわたり、正に偉人だったのです。キリスト教における博愛の精神を実践した「貧民の聖者」、
戦前は現代の『三大聖人』(カガワ・ガンジ・・シュバァイツァ・)と称されました。ロータリ
・とのかかわりが無かったのが気になるところです。それと小島よしおさんがコラムの結び
で「無理はせず、手の届く範囲でヒーロー・を目指そう!」と記したメッセ・ジが目に留まりま
した。会長の時間でした。



【幹事報告】 お知らせ ・国際ロータリー理事会にて2026-27年度国際ロータリー会長にオンラインカ・ハキーム・パパロア氏(ナ
イジェリアのトランス・アマディ RC 所属)を選出しました。この指名を受諾し直ちにロータリー会長エレクトとなり、2026年7月1
日に会長に就任します。(コン・サング RI 会長エレクトの病気による辞任のため) ・11/17(月)ロータリー財団地域セミナーがパシ
フィコ横浜にて開催されます。登録料15,000円9/30締切です。詳細は事務局まで

・11/18(火)メジャードナー顕彰午餐会がヨコハマ・グランド・インターコンチネンタル・ホテルにて開催されます。登録料 16,000円 9/30 締切です。詳細は事務局まで

今月の家庭集会 9/11(木) 当番リーダー：福本 出席者：川口 隠地 的場 奥中
9/25(木) 当番リーダー：遠山 出席者：前田 杉本 三枝 幸松

ガバナー公式訪問に関して 浅津会場監督

119名の参加予定で現在管理親睦委員会を中心に準備を進めています。公式訪問の目的は、国際ロータリーの今年度方針を伝えること
2630地区の今年度方針も併せて伝達すること
ガバナーと会長・幹事との懇談会では、各クラブの実状と今年度方針をガバナーに伝えて、ガバナーからそれについてのサジェスションをいただくこと となります。

米山奨学生 劉 鑫さんスピーチ

スピーチテーマは、「日本語を学んで気づいたこと」です。

私が最初に日本語を勉強する時、日本の漢字と中国の漢字の意味が同じなので理解やすいと思いました。しかし実際に学んでみると、日本語には複雑で深い仕組みがあることを知りました。まず一番難しいのは敬語です。尊敬語、謙譲語、丁寧語と、相手によって使い分けなければなりません。最初の時、日本語学校で「先生に“ご苦労様です”と言って失礼だった」と注意されたことがあります。その経験から、日本語は単なる言葉の違いだけではなく、「相手との関係を大切にする文化」を学びました。また、日本語には曖昧さがあります。例えば、「考えておきます」という表現は、母国語に直訳すると「必ず考える」という意味になりますが、日本語では「断る」場合にも使われることがあります。最初は困りましたが、この曖昧さは相手の心を傷つけないため気づきました。日本語の勉強を通じて、言葉の「思いやりの文化」を理解することができました。

さらに、日本語を学ぶ中で気づいたのは、言葉が人間関係を構築大切なことです。日本語で会話できるようになってから、友人も増え、人と交流する機会も広がりました。日本語は単にコミュニケーションの手段ではなく、私にとっては「人と人をつなぐ不可欠なこと」になっているのです。これからも日本語をもっと深く学び、日本社会についての理解を深めたいと思います。



【ニコニコBOX】本日の合計金額 40,000円

○米山奨学生 劉さんようこそ 丹下君、週報作成ご苦労様でした。感謝します！ 小川会長

○劉さん、今日のスピーチよろしくお願いいいたします。 坂本幹事 中島君 城山君 的場君 川口君 藤森君 井上君 宮尾君 奥中君 奥田君 廣瀬君 廣野君 志浦君 三木君 山本君 今中君 杉本君 大崎君 丹下君 瓦井君 隠地君 脇坂君 玉田君 小川君 梅澤君

○スケジュール調整が可能な方は ぜひご臨席いただければ幸いです。 亀井君

○9月8日のガバナー公式訪問 ご協力願います 浅津君

○筋膜断裂で皆さまにはご迷惑をおかけします。 大藪君

